

高校公民プリント（過去問類似）

日本の思想 No.10

名前

得点

/10

問1 明治期の思想家である西村茂樹が著し、急速な欧化主義による道徳の退廃を批判し、儒教と西洋哲学の精髓が一致する「天地の真理」を基礎に据えることで、日本独自の国民道徳を確立すべきだと主張した書物は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 立憲政体略 2. 将来之日本 3. 日本道徳論 4. 西国立志編

問2 商業活動を営む人々の社会的役割を模索し、商人の利益追求を正当なものとして肯定する一方で、正直と儉約を重んじる独自の道徳・倫理を唱えて、よりよい社会の実現を目指した江戸中期の思想家は誰か。（2018年 全国公立入試 類似）

1. 貝原益軒 2. 安藤昌益 3. 石田梅岩 4. 中江藤樹

問3 神仏習合の進展に伴い、日本の神々は、本来の姿である仏が人々を救うために仮の姿となって現れたものであるとする考え方が現れた。この、平安時代中期以降に広く浸透した思想を何というか。（2009年 全国公立入試 類似）

1. 神本仏迹説 2. 本地垂迹説 3. 山王一実説 4. 両部神道説

問4 修行と悟りは一体不可分であるとする思想を唱え、ただひたすらに坐禅を行う只管打坐を説いて、越前国に永平寺を建立した鎌倉仏教の僧侶は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. 親鸞 2. 栄西 3. 法然 4. 道元

問5 阿弥陀仏が立てた四十八の誓願が説かれており、その名号を称える衆生を一人残らず極楽浄土へ往生させるという救済の約束が記されている、浄土教において最も重視される経典は何か。（2012年 全国公立入試 類似）

1. 教行信証 2. 往生要集 3. 無量寿経 4. 阿弥陀経

問6 鎌倉仏教の展開において、阿弥陀仏による救済は人間の信・不信を超越していると考え、名号そのものに絶対的な救済力があると主張した人物がいる。全国を遊行して「南無阿弥陀仏」と記した念仏札を配り、踊り念仏を通じて、信心の起きない者であっても往生できるという徹底した他力思想を説いた、この時宗の開祖は誰か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 道元 2. 法然 3. 一遍 4. 親鸞

問7 江戸時代の大坂の町人学者で、仏教や儒教などの思想が歴史的に形成されてきた過程を批判的に検討した人物は誰か。彼は、後世の思想家が先人の説の上に新たな主張を積み重ねていくことで思想が発展・変化するという歴史観を提示し、仏教経典のすべてが釈迦自身の言葉ではないと主張した。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 富永仲基 2. 山片蟠桃 3. 手島堵庵 4. 石田梅岩

問8 空海が体系化した真言密教において、宇宙の真理そのものであり、修行者が一体化を目指すべきとされる、密教における中心的な本尊を何というか。（2010年 全国公立入試 類似）

1. 薬師如来 2. 大日如来 3. 阿弥陀如来 4. 釈迦如来

問9 近代日本の思想において、西洋文明の受容をめぐり、既存の知識や習慣を疑って真実を追究する「懐疑の精神」こそが文明の進歩の原動力であると主張した。その一方で、自国の伝統を深く考えずに捨て去り、西洋の事物を盲信する軽薄な態度を戒め、主体的・合理的な判断力をもつ「独立自尊」の個人を育成しようとした、著書『文明論之概略』で知られる思想家は誰か。（2015年 全国公立入試 類似）

1. 津田真道 2. 中村正直 3. 福沢諭吉 4. 中江兆民

問10 折口信夫は、日本の神の原型について、海の彼方にある常世国から定期的に村々を訪れ、人々に祝福や豊穡をもたらす異郷の神（靈的存在）であると考えた。この、折口の民俗学において重要な位置を占める、来訪神の概念を何と呼ぶか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. うぶすな 2. ことだま 3. よりしろ 4. まればと

答え合わせ・解説 No.10

問1	答え 3 日本道徳論	西村茂樹は、明治政府の急進的な欧化政策がもたらした道徳的混乱を改善するため、伝統的な儒教道徳の再評価を試みた。本書において彼は、儒教と西洋哲学の精髓が一致する共通の「天地の真理」を日本の道徳の基礎とし、その上で様々な教えを取捨選択して採用すべきであると主張した。
問2	答え 3 石田梅岩	石田梅岩は、士農工商の身分秩序の中で商人の存在意義を問い直し、商人の利益を「天下の御用の報い」として肯定した。彼は、自己の心を磨き、正直と儉約を実践することによって、誰もがよりよい生を送り、調和のとれた社会を実現できると説く「心学（石門心学）」を創始した。
問3	答え 2 本地垂迹説	神仏習合の思想的展開において、仏や菩薩を「本地（本来の姿）」とし、日本の神々を「垂迹（仮の現れ）」とする本地垂迹説が唱えられた。これに対し、鎌倉時代末期から室町時代にかけては、神を主、仏を従とする反本地垂迹説（伊勢神道など）も現れた。
問4	答え 4 道元	道元は宋に渡って如浄に師事し、帰国後に曹洞宗を開いた。彼は、修行（坐禅）と悟りは別のものではなく、修行すること自体がすでに悟りの現れであるとする修証一等の思想を説き、越前に永平寺を開いて弟子の養成に努めた。
問5	答え 3 無量寿経	浄土教の根本聖典である浄土三部経（『無量寿経』『観無量寿経』『阿弥陀経』）のうち、阿弥陀仏がかつて法蔵菩薩であった修行時代に立てた四十八の誓願（本願）を説いているのが『無量寿経』である。この経典に説かれる本願に基づき、名号を称えることで極楽往生ができるという専修念仏の思想が展開した。
問6	答え 3 一遍	阿弥陀仏による救済は人間の信心の有無を超越していると考え、ただ「南無阿弥陀仏」と唱えることで誰もが往生できると説いたのは、時宗の開祖である一遍である。彼は全国を遍歴（遊行）して念仏札を配る「賦算（ふさん）」を行い、踊り念仏を通じて庶民に他力念仏の思想を広めた。これに対し、法然は専修念仏を唱え、親鸞は絶対他力や悪人正機説を唱えて信心の重要性を強調した点が異なる。
問7	答え 1 富永仲基	仏教経典が後世の人々の解釈を付け加える（加上）ことによって成立したと考え、経典のすべてが釈迦自身の言葉ではないと主張した大坂の町人学者は富永仲基である。彼は『出定後語』などを著し、仏教や儒教、神道を歴史的・批判的な視点から研究した。
問8	答え 2 大日如来	真言密教では、歴史上の人物としての釈迦ではなく、宇宙の真理そのものであるこの本尊を崇拝する。修行者が身体・言葉・心の働きを仏に合わせる修行（三密加持）を行うことで、この本尊と一体化し、現世の肉体のままに仏になることができる（即身成仏）とされた。
問9	答え 3 福沢諭吉	西洋文明の進歩の原動力を、既存の知識を疑い真実を追究する懐疑の精神に見いだした。日本人もこの精神を学ぶべきであると主張する一方で、自国の伝統や習慣を深く考えずに軽々しく捨て去り、西洋の事物を盲目的に受け入れるだけの軽薄な態度を厳しく批判した。彼は「独立自尊」を説き、個人の独立が国の独立につながると主張した。
問10	答え 4 まれびと	折口信夫は、日本の神の起源を、海の彼方の常世国から定期的に来訪して人々に祝福を与える「まれびと（客人）」に見出した。これは、死者の魂が近くの山などに留まって祖霊になるとした柳田国男の他界観とは異なる、水平的な他界観（常世国）に基づいている。